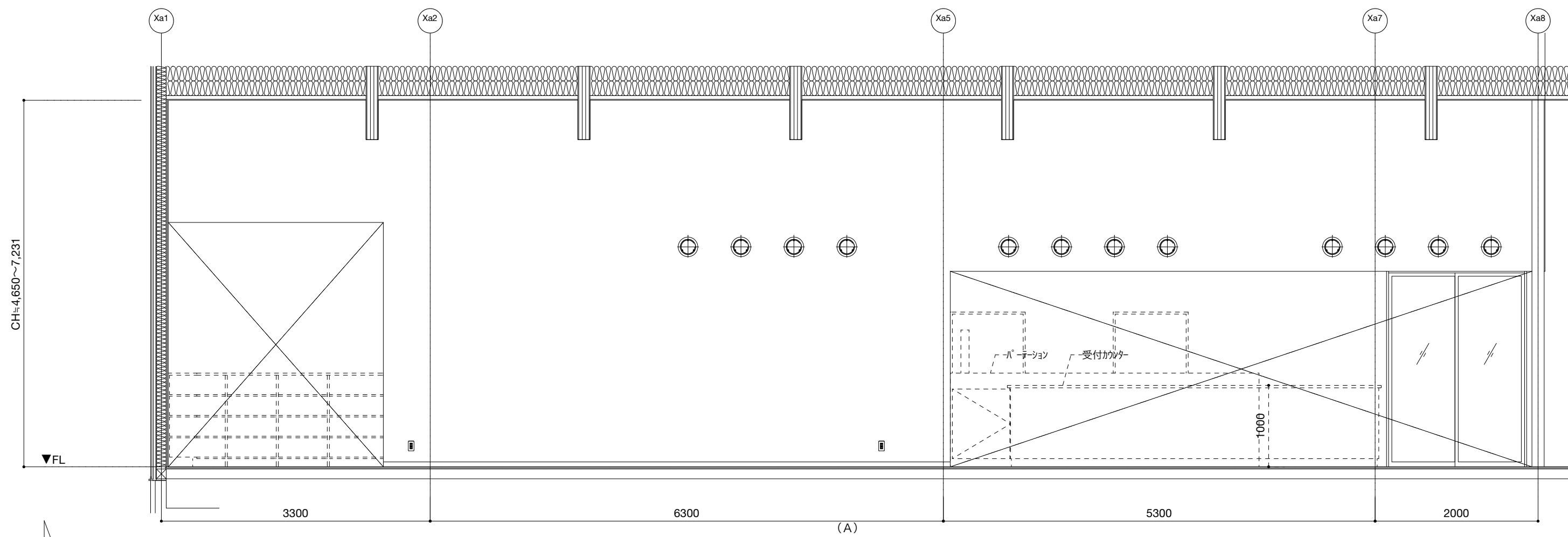
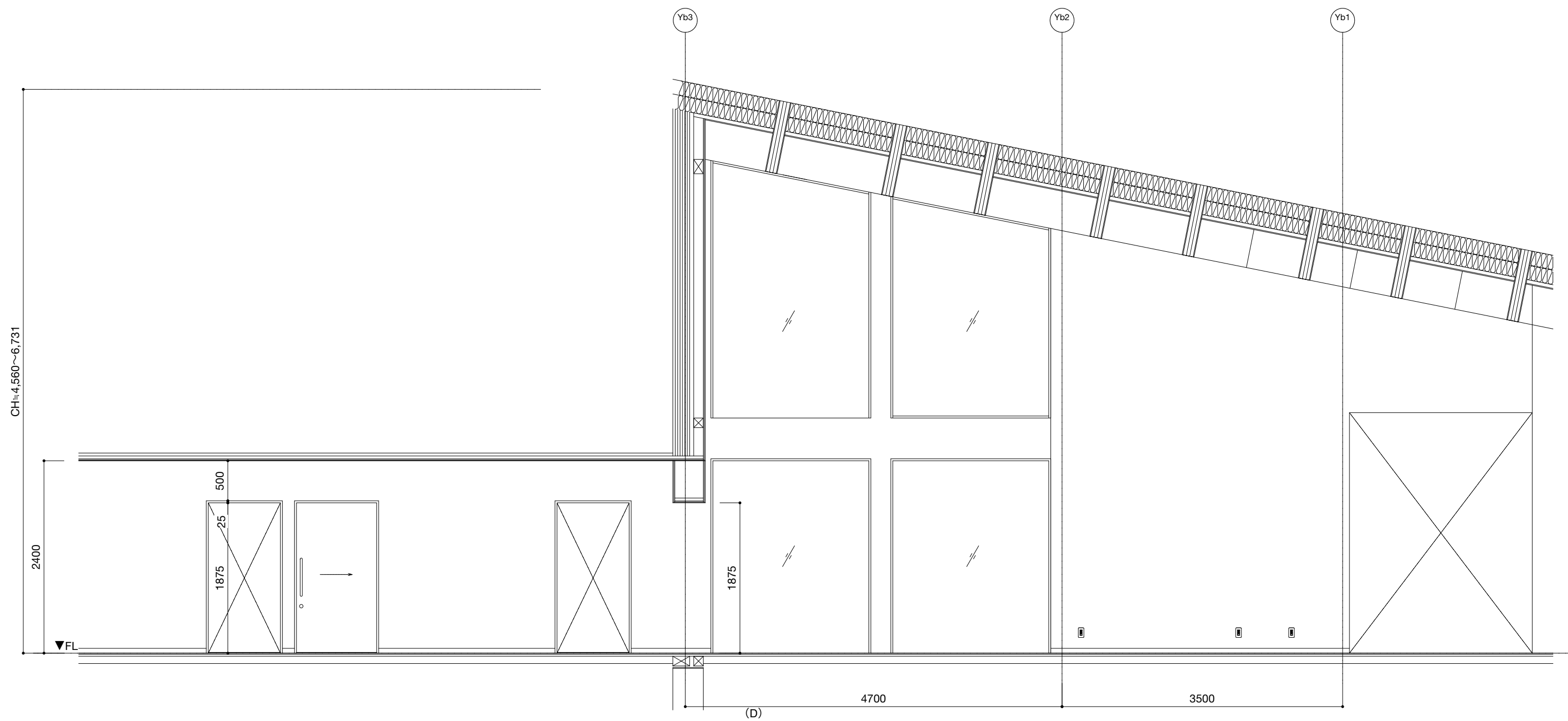




1F

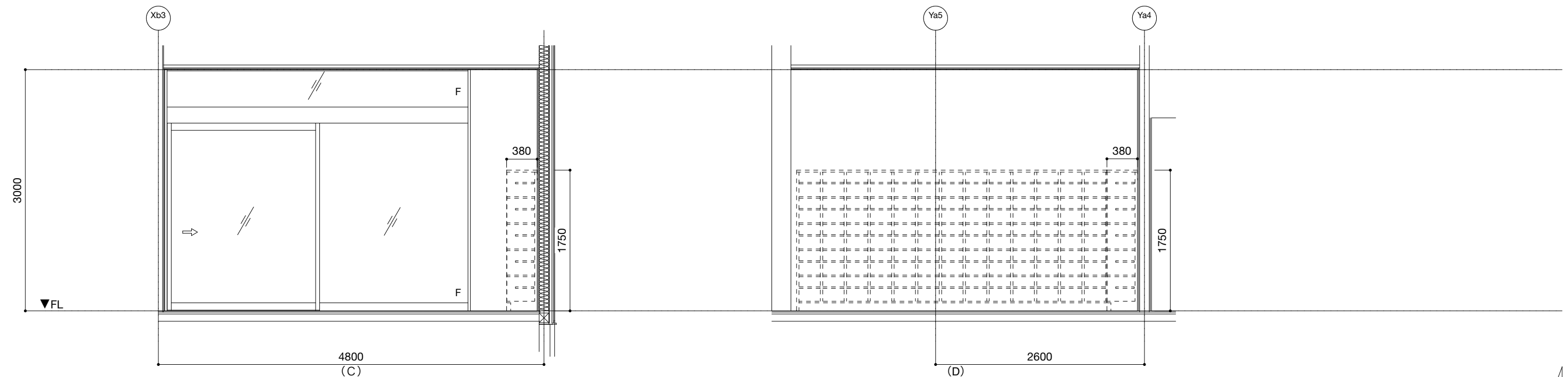
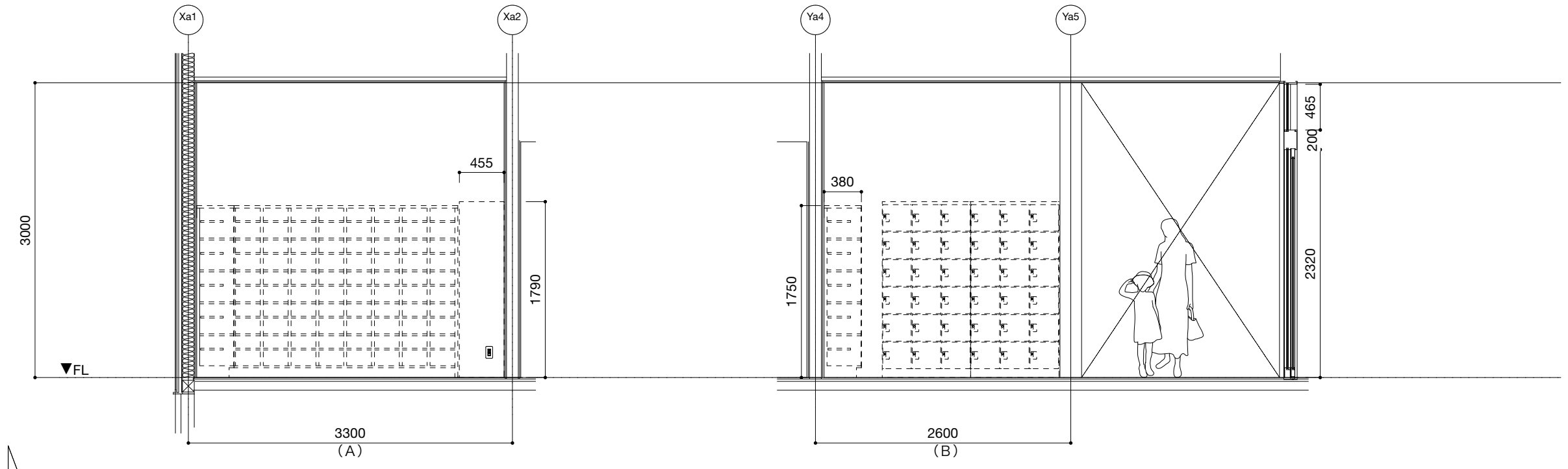
コミュニティ広場	
床	オーク厚貼複合フローリング t=15 下地:構造用合板 t=24
巾木	木巾木 t=10 H=60
壁	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R t=12.5+12.5
天井	木毛セメント板 t=12 梁:構造現し
備考	





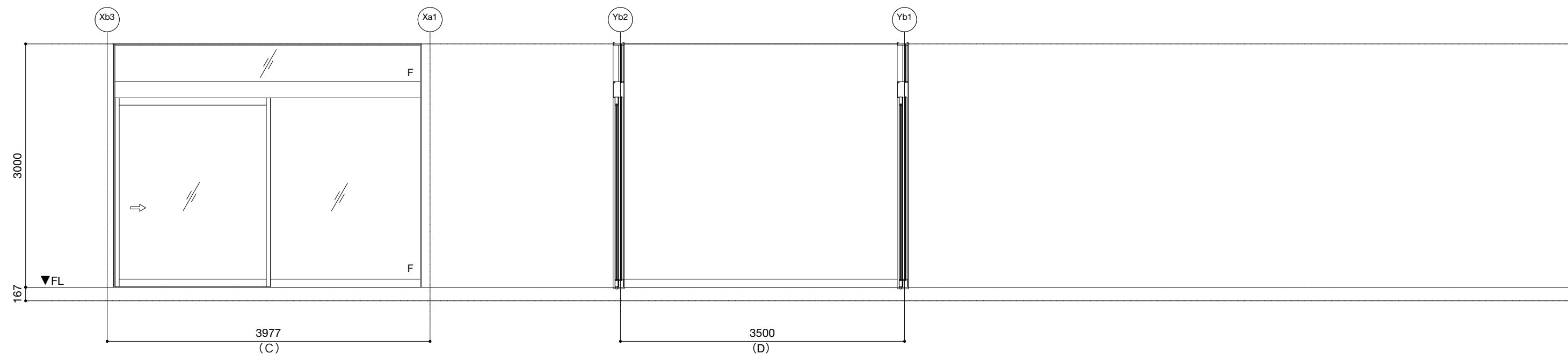
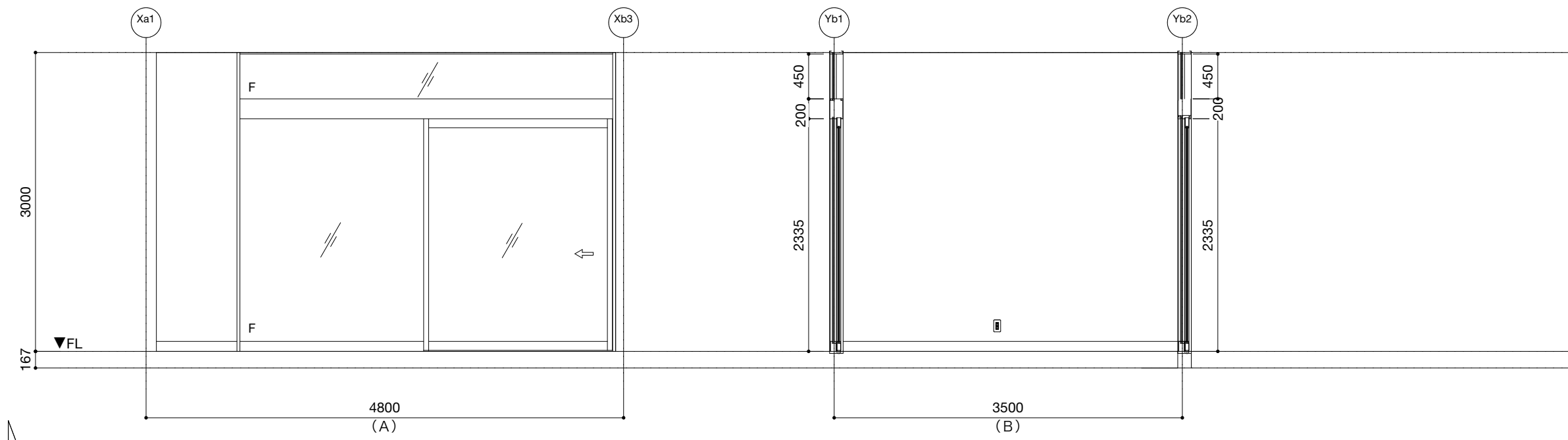
1F

下足・ロッカー	
床	磁器質タイル貼 300角 t=10 下地:珧タイル
巾木	磁器質タイル貼 H=100
壁	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R t=12.5+12.5
天井	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R t=12.5+9.5
備考	上框 :珧 CL 下足箱 (備品) ロッカー (備品)



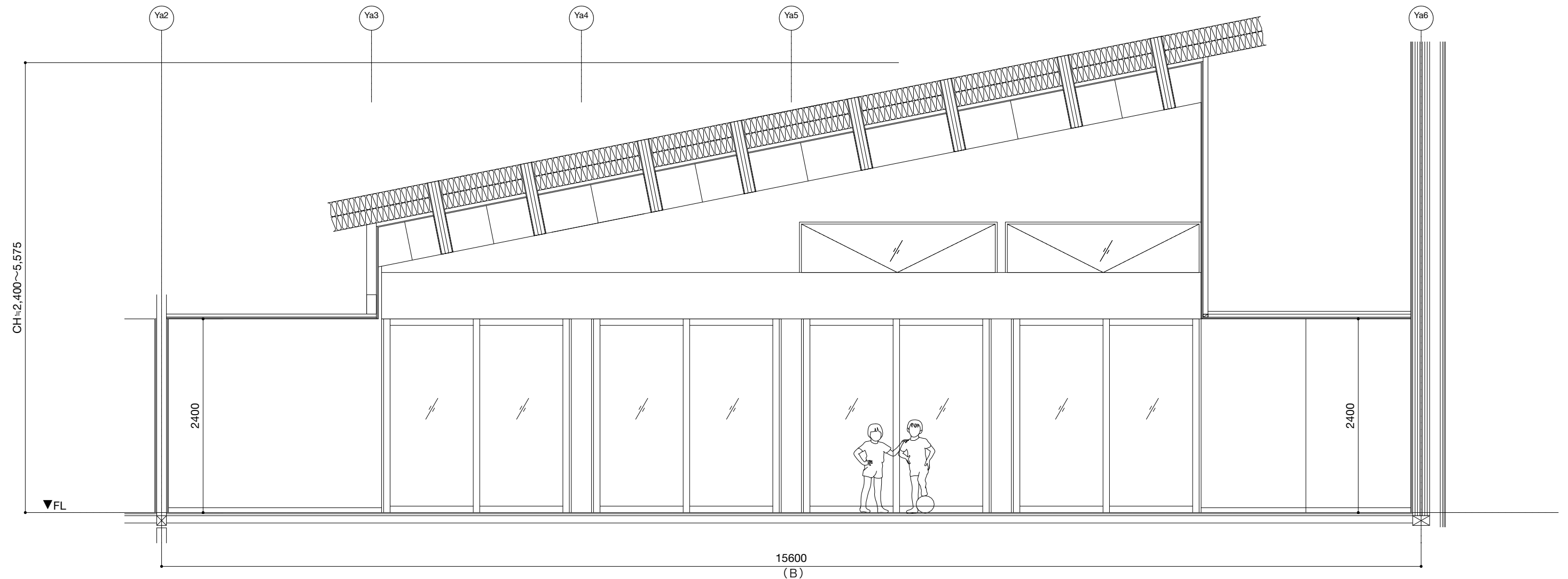
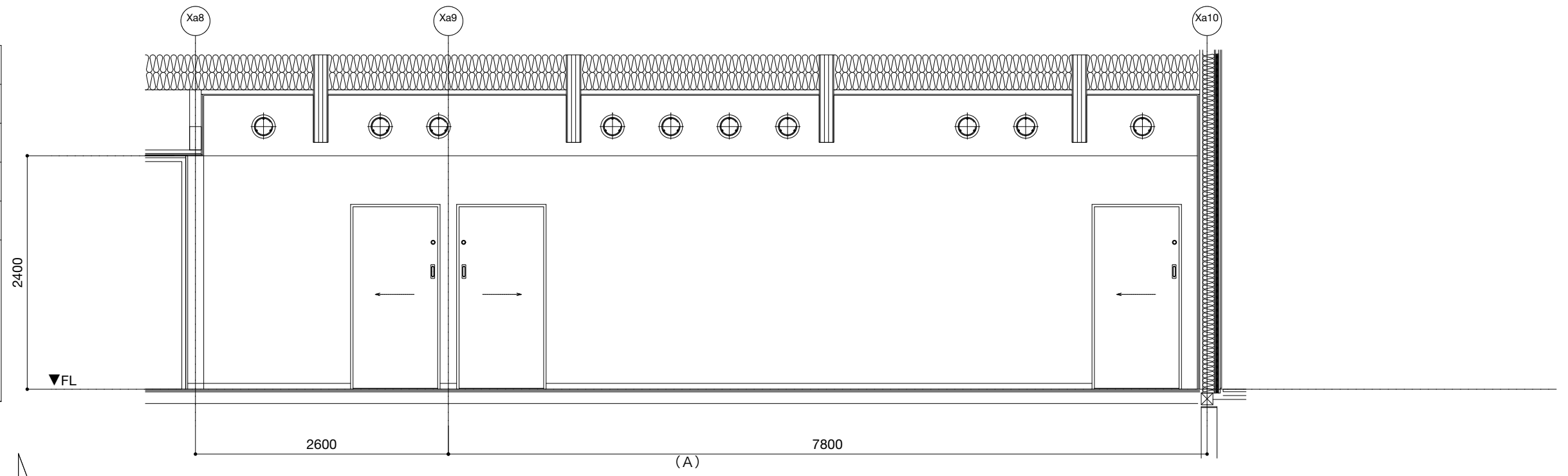
1F

風除室	
床	磁器質タイル貼 300角 t=10 下地:珧珧
巾木	磁器質タイル貼 H=100
壁	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R t=12.5+12.5
天井	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R t=12.5+9.5
備考	自動ドア インターホン 札 郵便受け

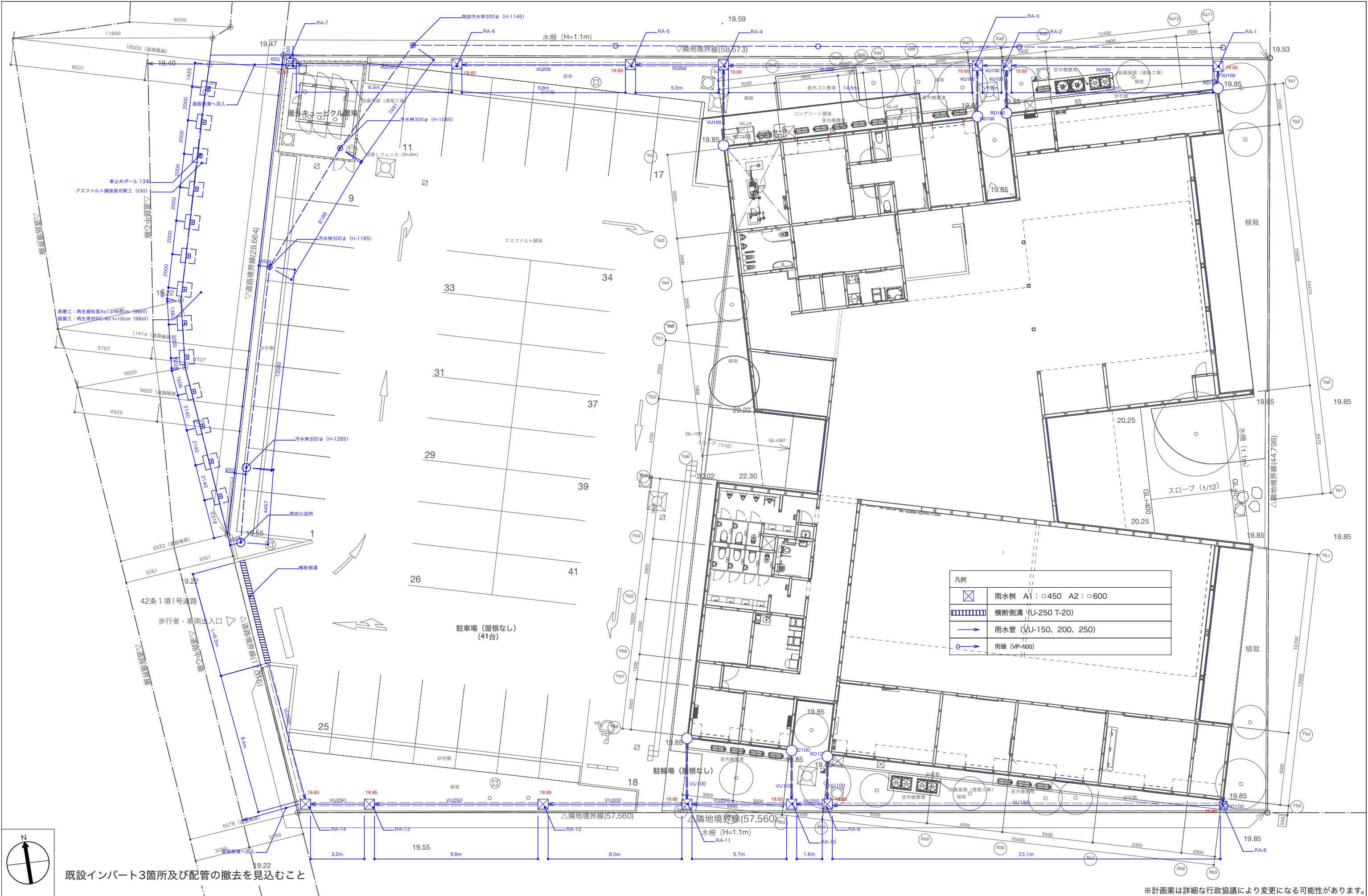


1F

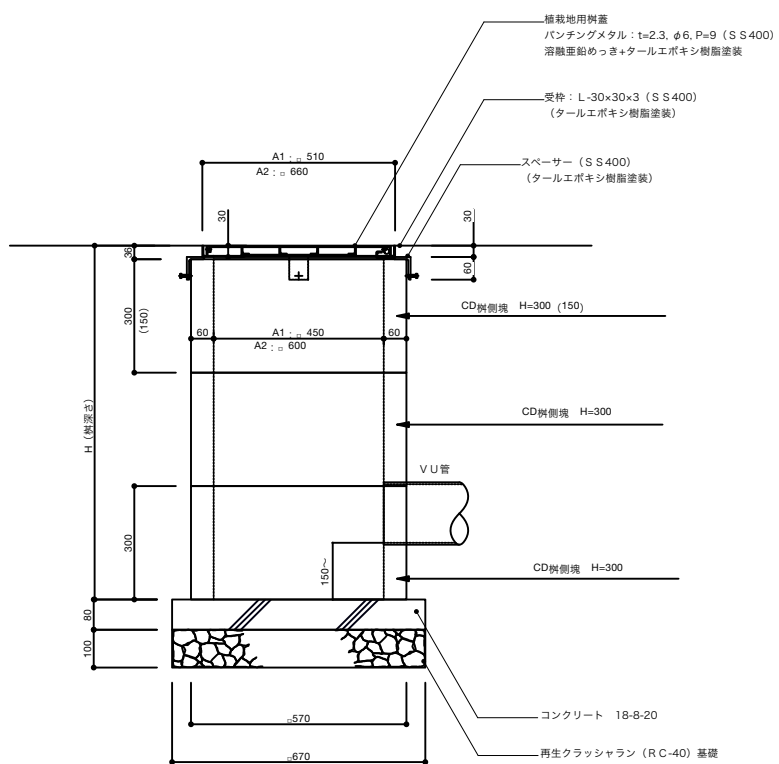
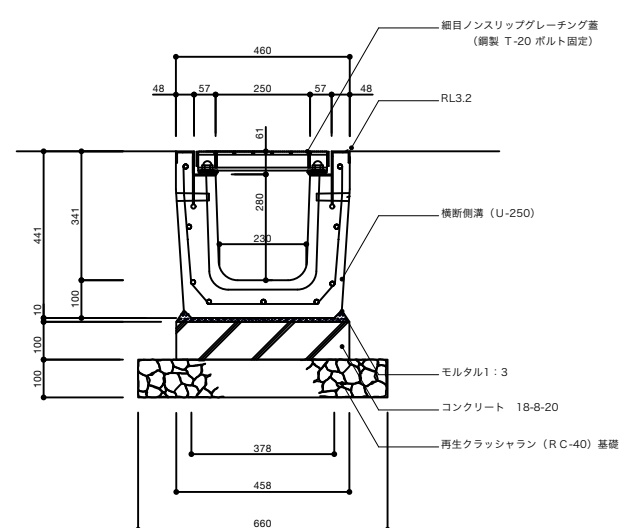
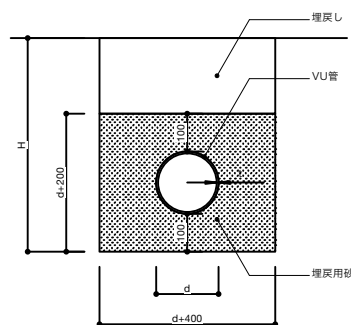
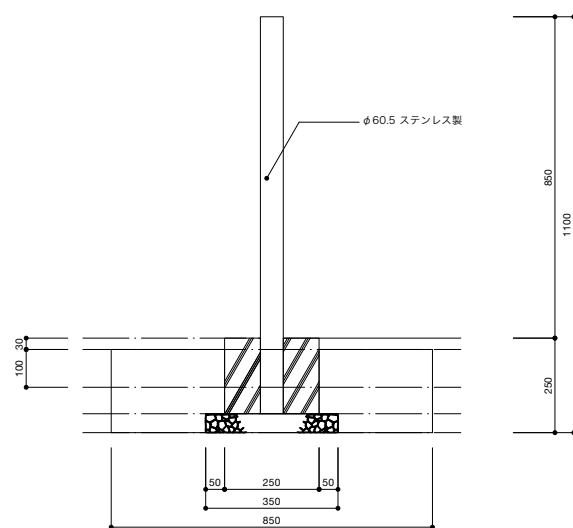
だれでも交流広場・休憩コーナー	
床	オーク厚貼合70-リング t=15 下地:構造用合板 t=24
巾木	木巾木 t=10 H=60
壁	内装薄塗材E種 t=2.0 下地:GB-R 12.5+12.5
天井	木毛セメント板 t=12 梁:構造現し
備考	ﾌﾞﾗｲﾄﾞ BOX ﾊﾞｰﾅｰｶﾙﾌﾞ ｳﾗｲﾄﾞ







※計画案は詳細な行政協議により変更になる可能性があります。

雨水樹リスト																																		
樹No	計画高	流入高	流出高	樹種別	樹深さ	蓋種別	流入水路																											
							種別	延長 (m)	勾配 (%)	備考																								
RA1	19.600	19.250	19.150	雨水樹A1	0.450	植栽地用樹蓋	VU-150	12	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA2	19.600	19.130	19.030	雨水樹A2	0.570	植栽地用樹蓋	VU-150	1.2	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA3	19.600	19.118	19.018	雨水樹A2	0.582	植栽地用樹蓋	VU-200	14.5	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA4	19.600	18.973	18.873	雨水樹A2	0.727	植栽地用樹蓋	VU-250	5	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA5	19.600	18.923	18.823	雨水樹A2	0.777	植栽地用樹蓋	VU-250	9.8	1.00%																									
RA6	19.600	18.825	18.725	雨水樹A2	0.875	植栽地用樹蓋	VU-250	9.3	1.00%																									
RA7	19.600	18.732	18.632	雨水樹A2	0.968	植栽地用樹蓋	VU-250	4.6	1.00%																									
RA8	19.850	19.500	19.400	雨水樹A2	0.450	植栽地用樹蓋	VU-150	23.1	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA9	19.850	19.269	19.169	雨水樹A2	0.681	植栽地用樹蓋	VU-200	1.6	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA10	19.850	19.253	19.153	雨水樹A2	0.697	植栽地用樹蓋	VU-200	5.7	1.00%																									
		19.350					雨樋100φ	-	-																									
RA11	19.850	19.196	19.096	雨水樹A2	0.754	植栽地用樹蓋	VU-200	8	1.00%																									
RA12	19.850	19.116	19.016	雨水樹A2	0.834	植栽地用樹蓋	VU-200	9.8	1.00%																									
RA13	19.850	19.018	18.918	雨水樹A2	0.932	植栽地用樹蓋	VU-250	3.2	1.00%																									
RA14	19.850	18.986	18.886	雨水樹A2	0.964	植栽地用樹蓋	VU-250	1	1.00%																									
集水樹A1 (□450) ,A2 (□600)						横断側溝 (U-250)		雨水管埋設		ボラード																								
								 <table data-bbox="1777 1614 2104 1814"><caption>排水管寸法表</caption><tr><th rowspan="2">記 号</th><th colspan="3">寸法表 (mm)</th></tr><tr><th>d</th><th>t</th><th>d+400</th></tr><tr><td>VU-100</td><td>114</td><td>3.1</td><td>514</td></tr><tr><td>VU-150</td><td>165</td><td>5.1</td><td>565</td></tr><tr><td>VU-200</td><td>216</td><td>6.5</td><td>616</td></tr><tr><td>VU-250</td><td>267</td><td>7.8</td><td>667</td></tr></table>		記 号	寸法表 (mm)			d	t	d+400	VU-100	114	3.1	514	VU-150	165	5.1	565	VU-200	216	6.5	616	VU-250	267	7.8	667		
記 号	寸法表 (mm)																																	
	d	t	d+400																															
VU-100	114	3.1	514																															
VU-150	165	5.1	565																															
VU-200	216	6.5	616																															
VU-250	267	7.8	667																															
								※計画案は詳細な行政協議により変更になる可能性があります。																										
								UDS株式会社		一級建築士事務所 登録番号 東京都知事 第55547号 一級建築士 第281824号 中原 典人																								
								PROJECT 南相馬市地域子育て支援拠点施設 TITLE 集水樹リスト SCALE 1:20 DATE 2025.06.23 SIGN 小田島		NO. A-62																								

凡 例						
工事区分 工種 種別	記号	細別	規格	数量	単位	備考
			形状寸法			
施設整備						
園路広場整備工						
アスファルト系舗装工		アスファルト舗装	密粒度アスコンt50	960.5	m2	
コンクリート系舗装工		コンクリート舗装	t70、表面ハケ引き	76.7	m2	
		コンクリートスロープ	t70、表面ハケ引き	54.5	m2	
石材系舗装工		砂利舗装	砂利（単粒度砕石）、t50 防草シート共	114.5	m2	
		飛石	野面石（鑄系）φ500×t150程度	4	個	
園路縁石工		コンクリート縁石-1	地先境界ブロック 100×100×600	217.9	m	
		コンクリート縁石-2	地先境界ブロック 100×100×600、基礎コン有	27.1	m	
		コンクリート縁石-4	両面歩車道ブロックA 150/190×200×600、基礎コン有	60.2	m	
		見切材	SUS製、h150	49.7	m	
		駒止めブロック	100/180×120×600/個 ピン固定	3	個	
区画線工		溶融式区画線-1	駐車ラインW150	193.6	m	
		溶融式区画線-2	停止線W450	3.0	m	
		溶融式区画線-3	矢印（直進）	3	箇所	
		溶融式区画線-4	矢印（右折）	3	箇所	
		溶融式区画線-5	矢印（直進・右折）	1	箇所	
		溶融式区画線-6	障害者用駐車スペース	1	箇所	
デッキ工		デッキ	145×t30、人工木製、鋼製下地 下地コンクリート打設	1	式	
視覚障害者誘導工		視覚障害者誘導 タイル	点字タイル	7.6	m2	



凡 例

工事区分		記号	細別	規格	数量	単位	備考
工種				形状寸法			
種別							
施設整備							
サービス施設整備工							
サイン施設工			サイン	SUS板1500×590 SUS切文字φ100 (20文字程度)	1	基	
管理施設整備工							
門扉工		門扉-1	スチール製、W1500×H1100 両開き		1	箇所	
		門扉-2	H2000、W900 片開き		1	箇所	
柵工		柵	スチール製、H1100		104	m	
		目隠しフェンス	H2000		20.0	m	
		手すり	H750		14	m	



※計画案は詳細な行政協議により変更になる可能性があります。



UDS株式会社

一級建築士事務所
登録番号 東京都知事 第55547号
一級建築士 第281824号 中原 典人

PROJECT . 南相馬市地域子育て支援拠点施設
TITLE . 施設平面計画図
SCALE . 1:300

DATE . 2025.3.25

SIGN . 中原

NO .

LD-02

凡 例												
工事区分		記号	細別	規格		数量	単位	備考				
				形状寸法								
工種												
種別												
植栽												
植栽工												
高木植栽工	モ	モミノキ	H	C	W	1	本	ハッ掛 (丸太) 支柱2				
	ハ	ハクモクレン	4.0	0.21	1.8	1	本	二脚鳥居支柱 (添木無)				
	シ大	シラカシ(大)株立	5.0	-	2.5	2	本	ハッ掛 (丸太) 支柱1				
	ハ	ハイノキ 株立	3.5	-	1.5	10	本	ハッ掛 (竹) 支柱				
	シ小	シラカシ(小)株立	3.5	-	1.5	1	本	ハッ掛 (竹) 支柱				
	ク	クヌギ	5.0	0.25	2.0	3	本	二脚鳥居支柱 (添木無)				
	い	イロハモミジ	3.5	0.21	1.8	2	本	二脚鳥居支柱 (添木無)				





UDS株式会社

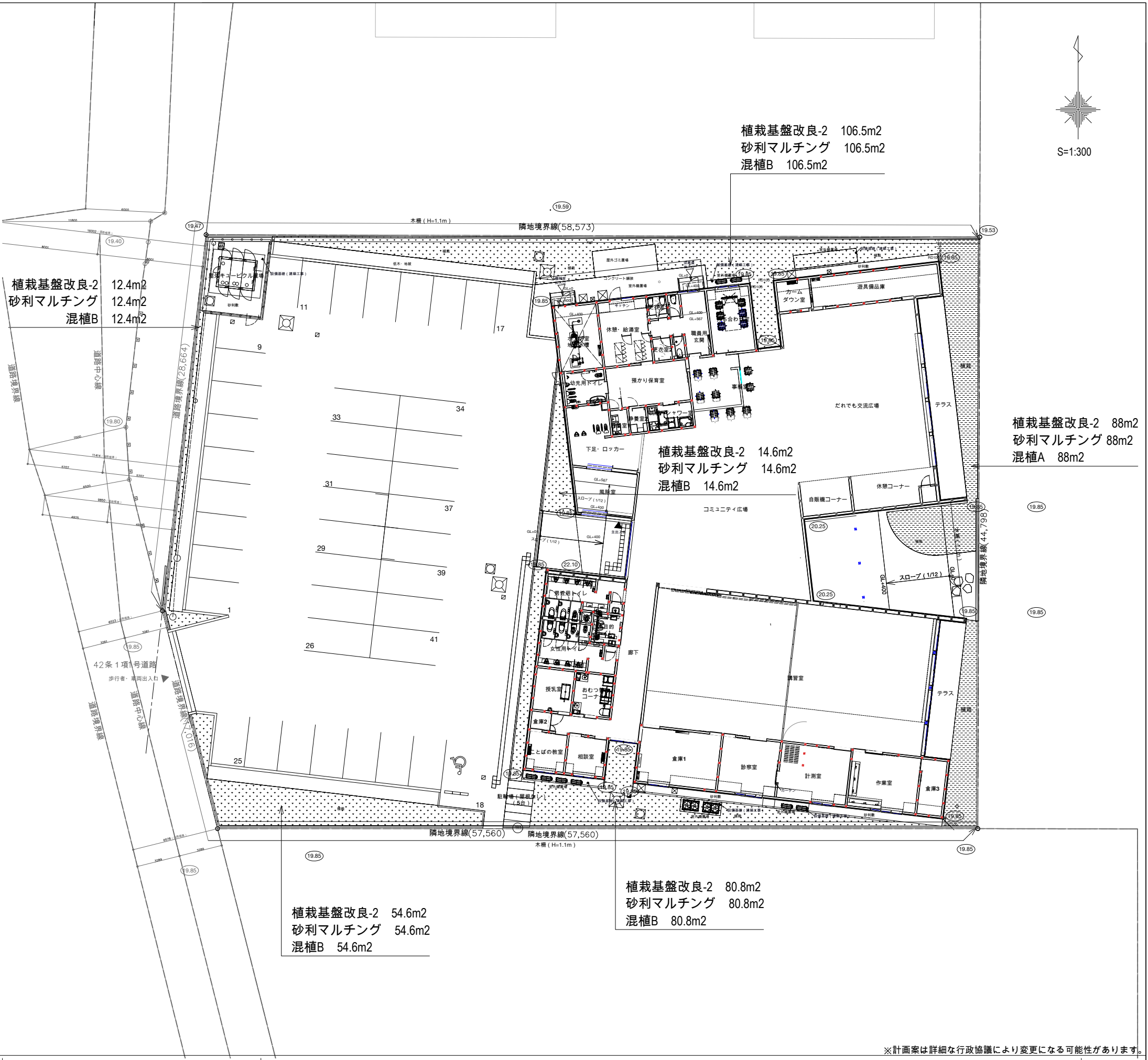
一級建築士事務所
登録番号 東京都知事 第55547号
一級建築士 第281824号 中原 典人

PROJECT . 南相馬市地域子育て支援拠点施設
TITLE . 中高木植栽平面計画図
SCALE . 1:300 DATE . 2025.3.25 SIGN . 中原

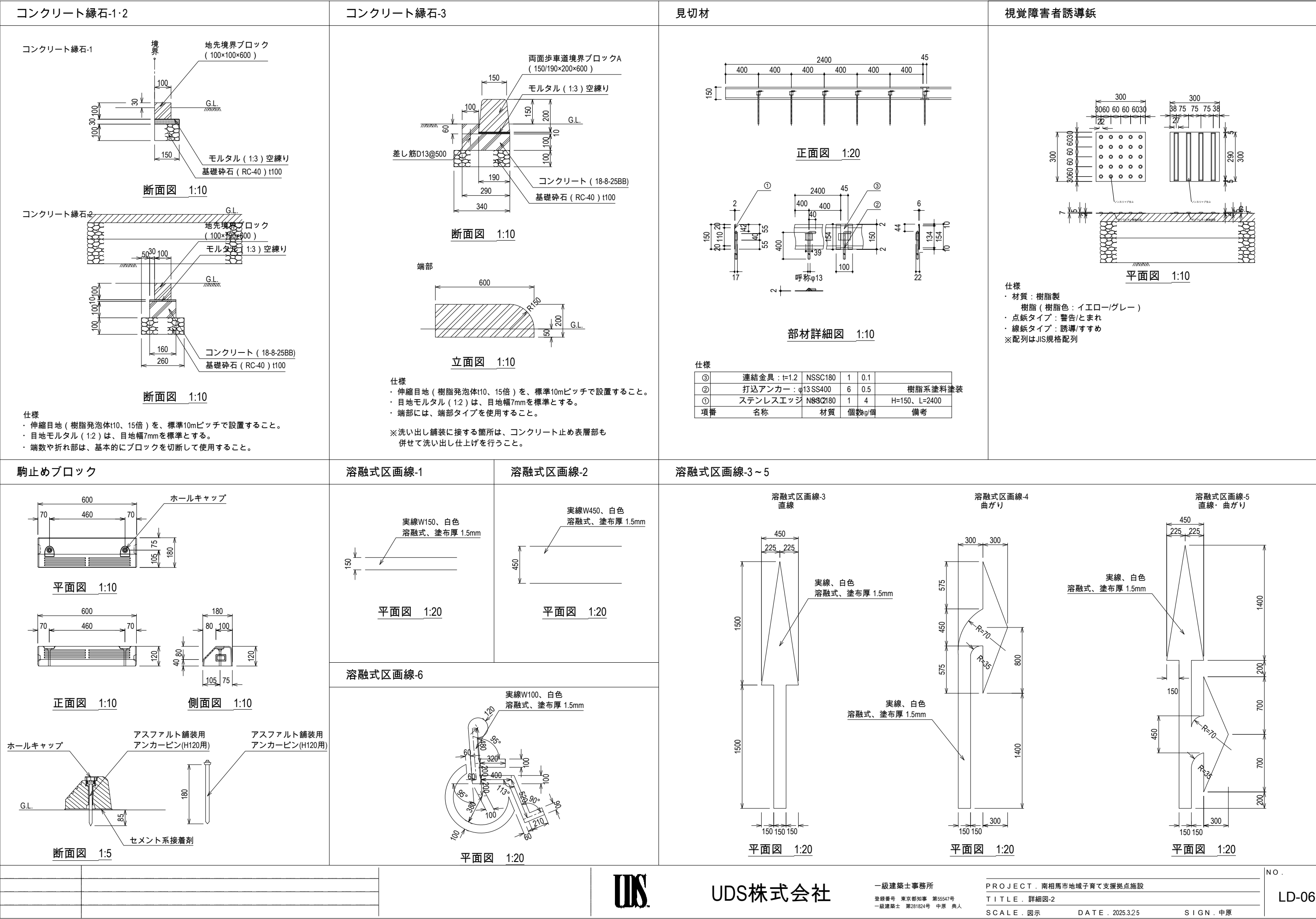
NO .
LD-03

凡 例									
工事区分		記号	細別	規格			数量	単位	備考
				形状寸法					
植栽									
植栽工				H	C	W			
中低木		混植A					88	m2	3株/m2
植栽工		低木・地被							36pot/m2
中低木		混植A/B (低木)	0.6	-	0.4		335	株	3株/m2 植栽比率= 同一比率
植栽工		アベリア							
		混植A/B (低木)	0.4	-	0.3		335	株	
		コロキア							
		混植A/B (低木)	0.3	-	0.2		335	株	
		アオキ							
地被類		混植A	12.0VP		5芽立		264	株	36pot/m2 植栽比率= 同一比率
植栽工		ホワイトセージ							
		混植A	9.0VP				264	株	
		アジュガ							
		混植A	9.0VP				264	株	
		ヒメツルソバ							
		混植B					268.9	m2	3株/m2
		低木							
樹木養生工		砂利マルチング	砂利 (鎗系3～5分)、t50				356.9	m2	

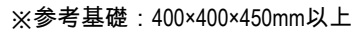
工事区分	記号	細別	規格	数量	単位	備考
			形状寸法			
基盤整備						
植栽基盤工						
土層改良工		植栽基盤改良-2	t300	356.9	m2	



アスファルト舗装 断面図 1:10 仕様 排水勾配を確認の上、施工すること。		洗い出し舗装 断面図 1:10 仕様 - 表面凝固遅延剤は、標準300g/m2を散布すること。但し、使用する遅延剤及び天候により調整を図ること。 - 伸縮目地（樹脂発泡体t10、15倍）は、標準5mピッチで設置すること。 - 既設構造物等に接する箇所には、樹脂発泡体t10を設置すること。 - 排水勾配を確認の上、施工すること。		コンクリート階段 断面図 1:20 仕様 排水勾配を確認の上、施工すること。	
コンクリート舗装 断面図 1:10 仕様 - 伸縮目地（樹脂発泡体t10、15倍）は、標準5mピッチで設置すること。 - 既設構造物等に接する箇所には、樹脂発泡体t10を設置すること。 - 排水勾配を確認の上、施工すること。		砂利舗装 断面図 1:10 仕様 - 防草シートは、ポリプロピレン・4層スパンボンド不織布、透水性あり、耐紫外線、強力タイプ、目付量240g/m2、厚0.64mm以上とする。 - 防草シートは覆土タイプとする。 - 防草シートは10cm程度ラップさせる。 - 固定ピンの打設間隔は50cm程度とし、打設本数は2～3本/m2とする。 - 防草シート設置面を滑らかに敷き均すこと。 - サンプルを提出の上、監督員と協議し決定すること。		植栽縁取り 断面図 1:10 仕様 排水勾配を確認の上、施工すること。	



門扉-2



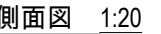
正面図 1:20

門扉-1



正面図 1:20

サイン



側面図 1:20

木柵

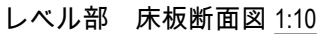
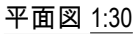
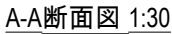


正面図 1:20

目隠しフェンス



断面図 1:20



植穴改良

植穴改良 断面図

砂利マルチング

断面図 1:10

■植穴改良

形状	植付型	幹周 cm	鉢径 w cm	鉢の深さ h cm	植穴径 W cm	植穴深さ H cm	鉢容量 m3	植穴容量 m3	客土量 m3	客土内訳					固形肥料) kg	備考
										現場土 m3	バーク堆肥 L	真珠岩系パーライト	黒曜石系パーライト	緩効性)		
高木	A-1	10 未満	33	25	69	37	0.017	0.090	0.073	0.055	7.30	7.30	3.65	0.210	0.374	
	A-2	10 以上 15 "	38	28	75	40	0.028	0.140	0.112	0.084	11.20	11.20	5.60	0.210	0.442	
	A-3	15 " 20 "	47	33	87	46	0.061	0.270	0.209	0.157	20.90	20.90	10.45	0.270	0.594	
	A-4	20 " 25 "	57	39	99	53	0.110	0.440	0.330	0.248	33.00	33.00	16.50	0.330	0.769	
	A-5	25 " 30 "	66	45	111	59	0.170	0.650	0.480	0.360	48.00	48.00	24.00	0.330	0.967	
	A-6	30 " 35 "	71	48	117	62	0.210	0.760	0.550	0.413	55.00	55.00	27.50	0.450	1.075	
	A-7	35 " 45 "	90	59	141	75	0.400	1.340	0.940	0.705	94.00	94.00	47.00	0.600	1.561	
	A-8	45 " 60 "	113	74	171	90	0.740	2.280	1.540	1.155	154.00	154.00	77.00	0.600	2.295	
	A-9	60 " 75 "	141	91	207	109	1.320	3.700	2.380	1.785	238.00	238.00	119.00	1.200	3.364	
	A-10	75 " 90 "	170	108	243	128	2.080	5.450	3.370	2.528	337.00	337.00	168.50	1.200	4.635	
中低木	B-1	30 未満	15	8	29	23	0.001	0.015	0.014	0.011	1.40	1.40	0.70	0.105	0.066	
	B-2	30 以上 50 "	17	10	33	26	0.002	0.022	0.020	0.015	2.00	2.00	1.00	0.105	0.085	
	B-3	50 " 80 "	20	12	37	28	0.004	0.030	0.026	0.020	2.60	2.60	1.30	0.135	0.107	
	B-4	80 " 100 "	22	13	41	31	0.005	0.040	0.035	0.026	3.50	3.50	1.75	0.135	0.132	
	B-5	100 " 150 "	26	16	46	35	0.008	0.057	0.049	0.037	4.90	4.90	2.45	0.180	0.166	
	B-6	150 " 200 "	30	19	54	40	0.013	0.090	0.077	0.058	7.70	7.70	3.85	0.180	0.229	
	B-7	200 " 250 "	35	23	61	46	0.022	0.133	0.111	0.083	11.10	11.10	5.55	0.270	0.292	
	B-8	250 " 300 "	40	26	69	51	0.032	0.188	0.156	0.117	15.60	15.60	7.80	0.270	0.374	

仕様

- 土性改良土は、植穴容量に対して容積比で現場土：バーク堆肥：真珠岩系パーライト（ 5.0mm以下 ）：黒曜石系パーライト（ 3～25mm ）を75：10：10：5の割合で均一によく混合すること。
- 固形肥料は緩効性肥料N-P-K・苦土＝12-6-6-2とする。
- 固形肥料の量は植栽基盤マニュアル（案）/（財）日本緑化センターを基に算出している。
- 数値は国土交通省土木積算基準に準拠している。
- 改良材の配合等は、施工時に現場土を分析し決定すること。
- マルチング面積は植穴径面積を基本とする。
- 植栽基盤改良（面改良）範囲については、マルチングを個別に計上しないこと。
- 低木の改良材については、植栽基盤改良（面改良）にて計上している。

植栽基盤改良-1 ※混植B箇所

断面図 1:10

植栽基盤改良-2 ※混植A箇所

断面図 1:10

仕様

- 土性改良土は、植穴容量に対して容積比で現場土：バーク堆肥：真珠岩系パーライト（ 5.0mm以下 ）：黒曜石系パーライト（ 3～25mm ）を75：10：10：5の割合で均一によく混合すること。
- 緩効性被覆肥料N-P-K＝16-5-10を150g/m2、地表面より10cm程度に混入する。
- 改良材の配合等は、施工時に現場土を分析し決定すること。

名称	単位	深さ cm	客土量 m3	客土内容				備考
				現場土 m3	バーク堆肥 L	真珠岩系パーライト L	黒曜石系パーライト L	
改良-1	1m2当り	15	0.150	0.112	15.0	15.0	7.5	マルチング
改良-2	1m2当り	30	0.300	0.225	30.0	30.0	15.0	全面

※植栽基盤改良-1のマルチングは、張芝には施工しない。

ハツ掛（竹）支柱

立面図 1:20

仕様

- 鉄線は、亜鉛めっき鉄線 #18 又は、 #18 より太いものを使用する。
- 三脚支柱の唐竹は、原則として2箇所以上の幹又は枝に結束する。
- 唐竹は、末口25mm内外とする。
- 唐竹相互の結束は、2本ずつ、2箇所以上とし、結束部分にのこぎり目を入れ、鉄線割掛けとし、2本どり3回巻き以上とする。
- 鉄線端部は、支柱結束部の内側に巻き込み処理を行う。
- 樹木と支柱の結束は、しゅろ縄縁掛けとし、2本どり3回巻きを標準とする。

UDS株式会社

一級建築士事務所
登録番号 東京都知事 第55547号
一級建築士 第281824号 中原 典人

PROJECT . 南相馬市地域子育て支援拠点施設

TITLE . 詳細図-5

SCALE . 図示

DATE . 2025.3.25

SIGN . 中原

NO .

LD-09

平面図 1:20

正面図 1:20

仕様

- ・杉丸太は、防腐処理を行う。
- ・鉄線は、亜鉛めっき鉄線#18又は、#18より太いものを使用する。
- ・丸太相互の取付けは、釘止めを行い、鉄線綾掛けの上、割掛け結束とし、2本どり3回巻き以上とする。
- ・鉄線端部は、支柱結束部の内側に巻き込み処理を行う。
- ・杉丸太は面取りを行う。
- ・樹木と支柱の結束は、しゅろ縄綾掛けとし、2本どり3回巻きを標準とする。

立面図 1:20

平面図 1:20

仕様

- ・杉丸太は、防腐処理を行う。
- ・支柱の丸太は、原則として、2箇所以上の幹に結束する。
- ・鉄線は、亜鉛めっき鉄線#18又は、#18より太いものを使用する。
- ・丸太相互の取付けは、2本ずつ、2箇所以上とし、釘止めを行い、鉄線綾掛けの上、割掛け結束とし、2本どり3回巻き以上とする。
- ・支柱の高さHは、樹高の2/3を標準とする。
- ・樹木と支柱の結束は、棕櫚縄綾掛けとし、2本どり3回巻きを標準とする。
- ・（ ）内は、L=6mを示す。

生垣形支柱

立面図 1:20

仕様

- ・杉丸太は、防腐処理を行う。
- ・鉄線は、亜鉛めっき鉄線#18又は、#18より太いものを使用する。
- ・生垣支柱の唐竹は、原則として2箇所以上の幹又は枝に結束する。
- ・唐竹は、末口25mm内外とする。
- ・唐竹相互の結束は、2本ずつ、2箇所以上とし、結束部分にのこぎり目を入れ、鉄線割掛けとし、2本どり3回巻き以上とする。
- ・杉丸太は面取りを行う。
- ・鉄線端部は、支柱結束部の内側に巻き込み処理を行う。
- ・樹木と支柱の結束は、しゅろ縄綾掛けとし、2本どり3回巻きを標準とする。

コンクリート縁石-4

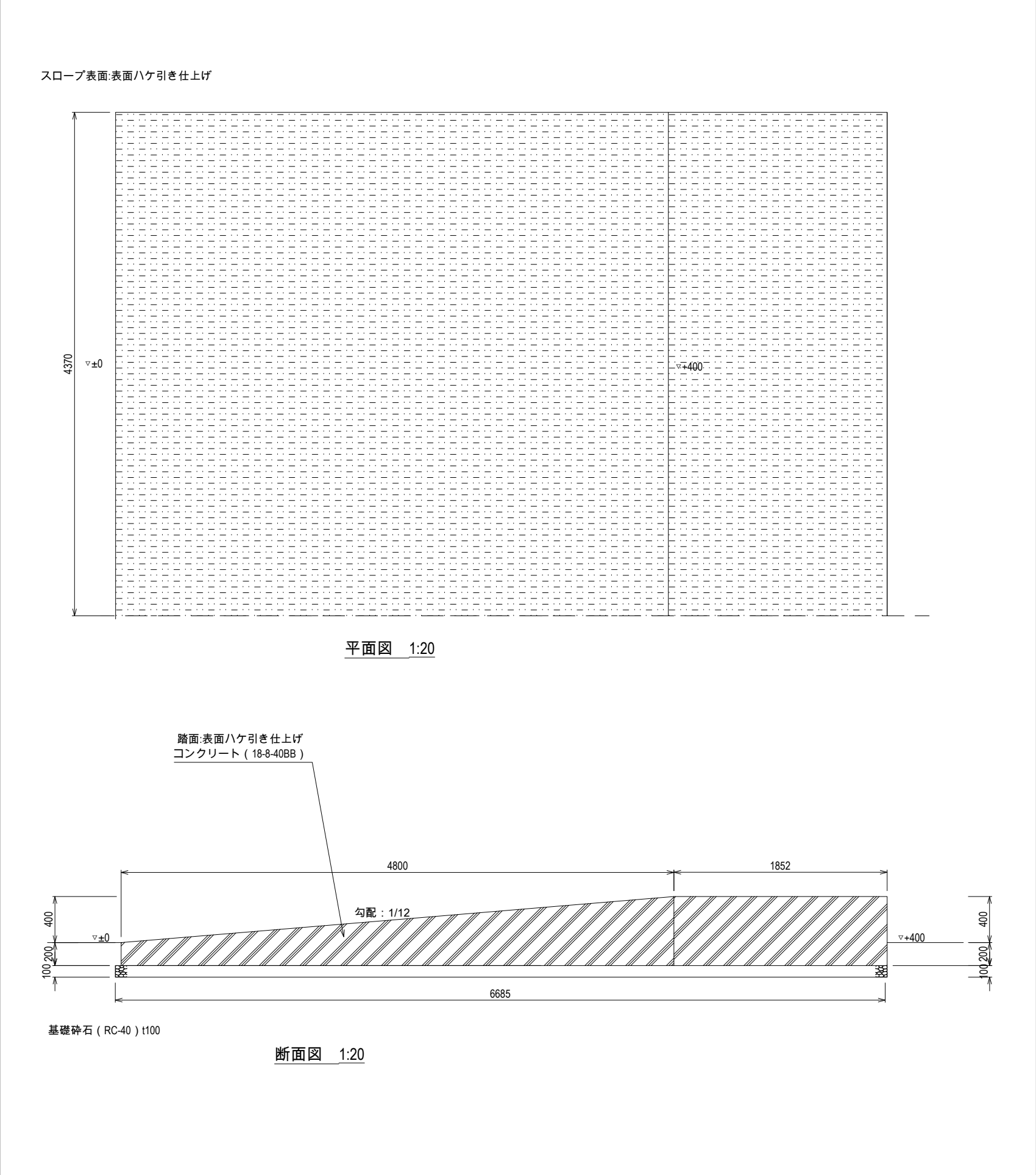
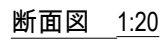
■ 両面歩車道境界ブロック水抜き[角]

断面図 1:20

立面図 1:20

仕様

- ・ 伸縮目地（樹脂発泡体10、15倍）を、標準10mピッチで設置すること。
- ・ 目地モルタル（1:2）は、目地幅7mmを標準とする。

[illegible]

断面図 1:20

木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 (1)

1. 一般事項

- (1) 適用範囲
※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。
- (2) 設計図書
設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。
- (3) 準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）
「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）
「公共建築木造工事標準仕様書 平成31年版」（国土交通大臣官庁官庁営繕部監修）
「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官庁官庁営繕部監修）
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）」（日本住宅・木材技術センター）
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」（2015年改訂版）
- 上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。
- (4) 設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）
2. 設計図
3. 特記仕様書
4. 本標準図
- (5) 疑義
疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。
- (6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出
工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。
- (7) 施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。
- (8) 製作工場の選定、承諾
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける
- (9) 各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。
- (10) 接合法
本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。
・継手仕口による在来工法
・梁受け金物、及びホゾパイプ等による金物工法
なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。
また、本標準図は在来接合法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。
本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承諾を得ること。
- (11) 加工部材に関する留意事項
本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。
・梁：部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同寸～450mm、及び材長6m以下
・柱：90角～150角の正方形断面、長さ6m以下

これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。

2. 材料

- ### (1) 木材及び木質材料
- 主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。
- ### (2) 接合具
- a) くぎ
- 主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。
- b) 木質構造用ビス
- 主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。
- c) ボルト・ナット・座金
- 1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。
- ・ボルトはJIS B 1051、ナットはJIS B 1052に規定される機械的性質を満たす炭素鋼
 - ・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット
 - 【 Zマーク表示金物 】
 - 【 Dマーク表示金物 】
 - 【 Sマーク表示金物 】
 - ・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット
- 2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。
- 3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。
- ※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。
- d) ドリフトピン・ラグスクリュー
- 主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。
- e) 木栓・木ダボ
- 主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。樹種・径等については、特記仕様書で指定する。節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。
- ### (3) 接合金物
- a) 規格金物
- 構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。
- ・JIS A 5531：木構造用金物
 - ・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物：
 - Zマーク表示金物、又は Cマーク表示金物
 - ・同等認定金物；Dマーク表示金物
 - ・性能認定金物；Sマーク表示金物
- 上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。
- 使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。
- b) 製作金物
- 製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。
- ### (4) 接着剤
- 原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。
- 建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。
- ### (5) 防腐防蟻処理及び耐候処理
- 防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。
- 土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。

3. アンカーボルト

- ※共通事項
・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。

(1) 土台固定用アンカーボルト

a). アンカーボルトの埋設位置； アンカーボルトの埋設位置は以下による。

-1. 耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部；
耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置（柱芯より200mm内外）とする。

引張金物専用アンカーボルト
M16以上
埋込み長さ ≥ 360 mm

土台
△ 基礎天端
200 程度
360 ※
250 ※
アンカーボルト
アンカーボルト
柱
土台
（見下げ）
※ J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。

-2. 土台切れの端部及び、土台の継手仕口；
土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。
当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。

継手の場合
男木
女木
土台
アンカーボルト
（見下げ）
男木
女木
土台
△ 基礎天端
250 ※
70 程度
200 程度
※ J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。

仕口の場合
男木
女木
土台
アンカーボルト
（見下げ）
土台
女木
200 程度
200 程度

土台切れの場合（柱勝ち収まり等）
アンカーボルト
土台
200 程度
（見下げ）
△ 通り芯、又は柱芯

-3. その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。

(2) 引張金物専用アンカーボルト

a). 引張金物専用アンカーボルトの径
引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。

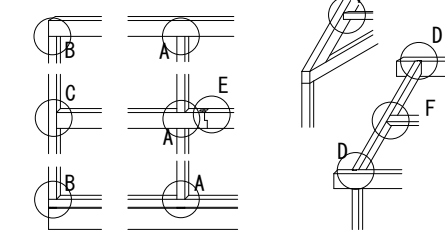
b). 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ
引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。

4. 接合一般

- ### （１）釘接合
- ・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。
 - ・面材表面に対し、釘頭がめり込んではいならない。
 - ・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえで手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。
 - ・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
 - ・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。
- ### （２）木質構造用ビス接合
- ・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。
 - ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。
 - 比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %
 - 上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %
 - ※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。
- ### （３）ボルト接合
- ・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
 - ・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。
 - ・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。
 - ・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。
- ### （４）ラグスクリュー接合
- ・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。
 - ・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
 - ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。
 - 比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %
 - 上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %
 - ※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。
 - ・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。
 - ・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。
 - ・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。
 - ・呼び径 M12以下：+1.0mm
 - ・呼び径 M16以上：+1.5mm
- ### （５）ドリフトピン接合
- ・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
 - ・ドリフトピンは、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
 - ・施工に際しては、孔に対しテーパのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。
- ### （６）木栓接合
- ・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
 - ・木栓は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
 - ・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。
 - ・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。
- ### （７）グルードインロッド接合
- ・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。
 - ・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
 - ・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。

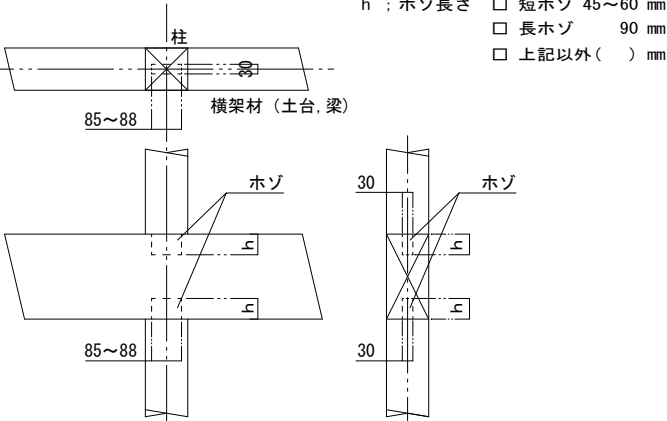
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキーフレーム

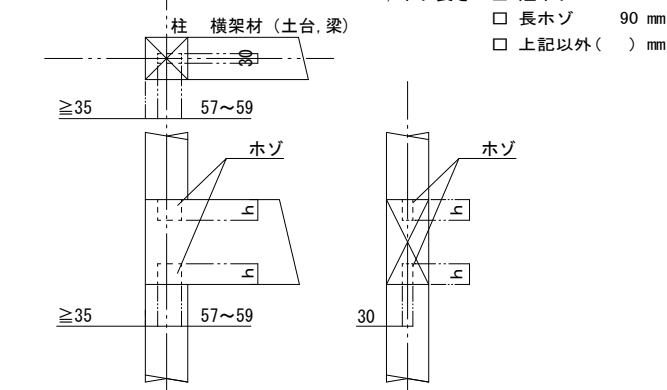


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

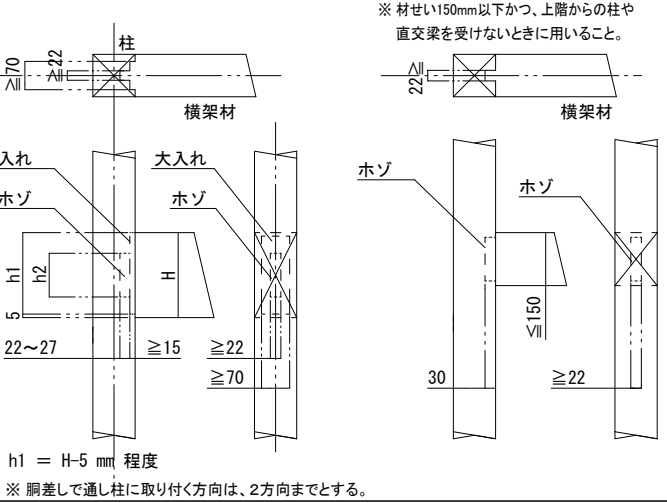
A 柱-横架材仕口：一般部（土台共通）



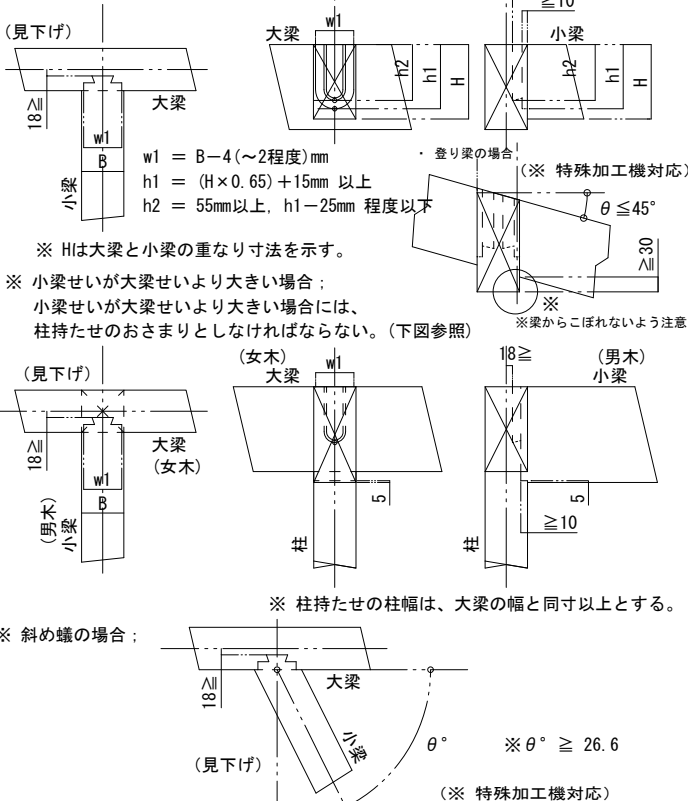
B 柱-横架材仕口：出隅部（土台共通）



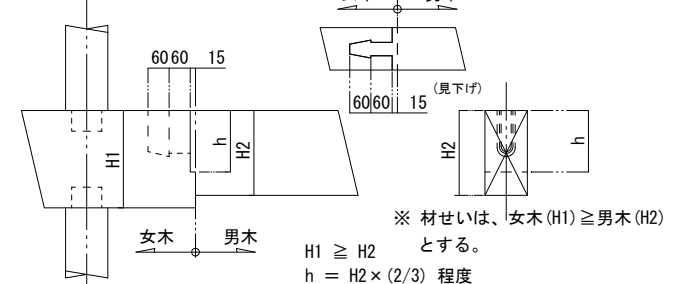
C 通柱—横架材仕口：胴差し



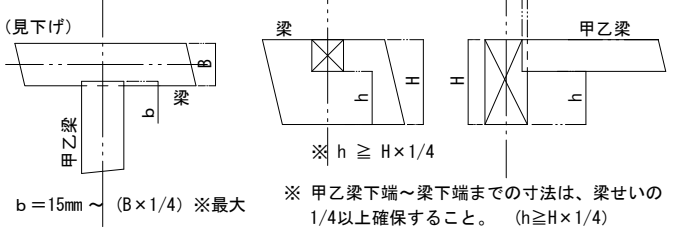
D 大梁—小梁仕口：蟻仕口



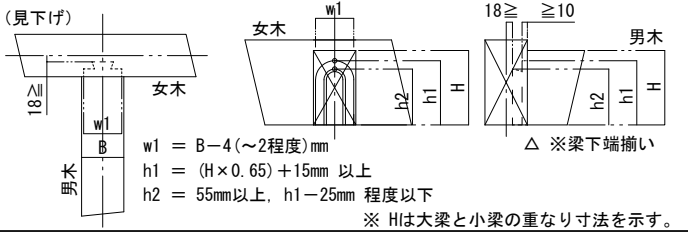
E 梁—梁継手：腰掛継ぎ



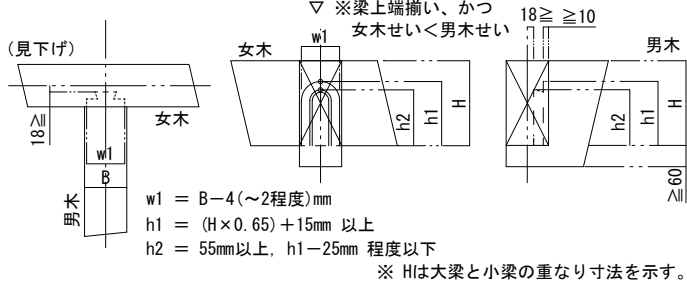
F 梁—甲乙梁仕口：大入れ



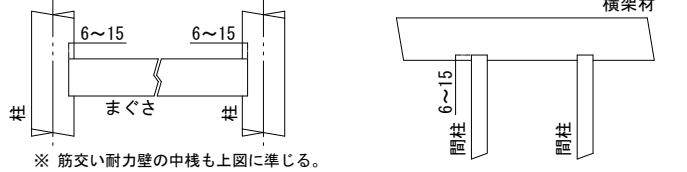
G 梁—梁仕口：逆蟻仕口



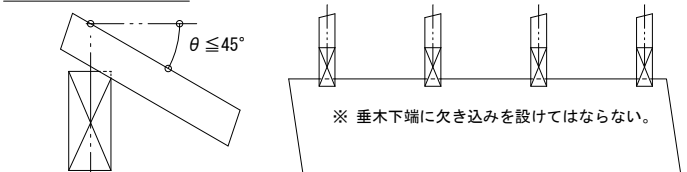
H 梁—梁仕口：茶臼仕口



I その他：まぐさ欠き



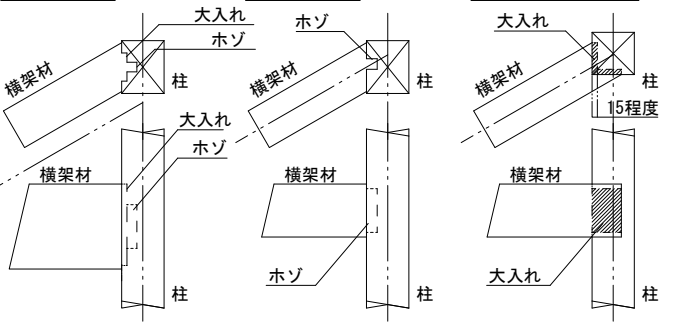
K その他：垂木欠き



(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

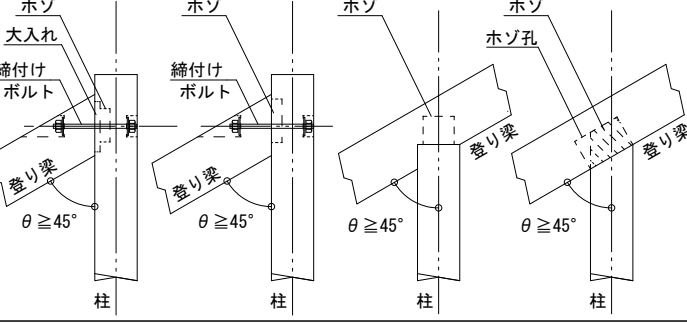
特殊加工機を用いることにより対応可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

L 斜め胴差し

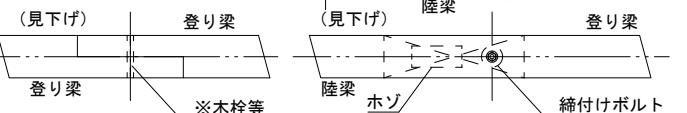
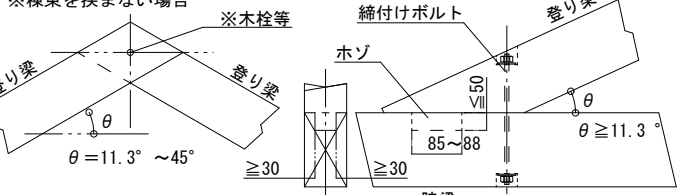


※ L, Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L, Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

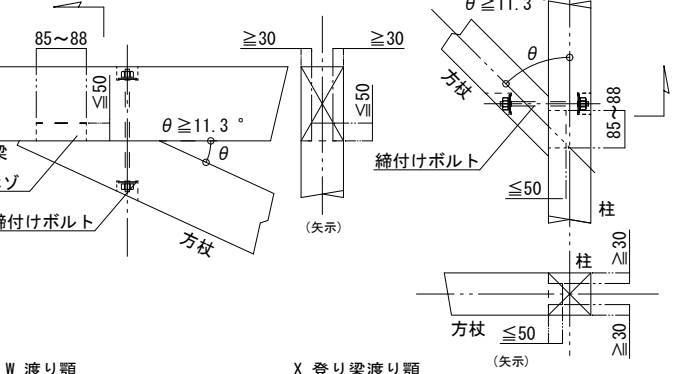
O 登り胴差し



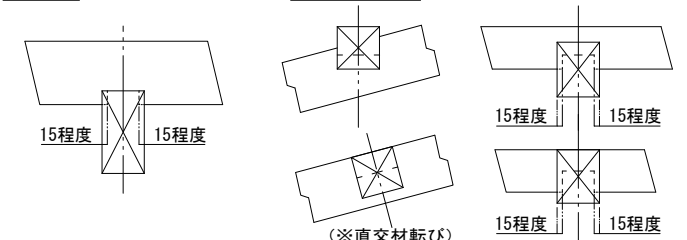
S 登り梁合掌部



U 方杖—梁仕口

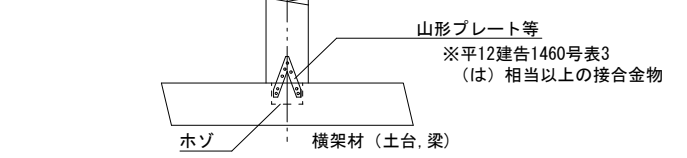


W 渡り頭

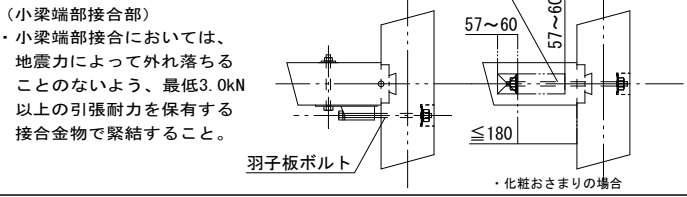


(4) 継手・仕口の補強金物

・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1KN以上の引張耐力を保有する接合金物(平12建告1460号表3に対応する表符号の"は"相当以上)を使用すること。



(梁-梁 接合部)
・水平構面の外周部横架材接合部においては、床水平構面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の接合部には、7.5KN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。(右図参照)



木造軸組接合部標準図(3B)

6 B. 昭56建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

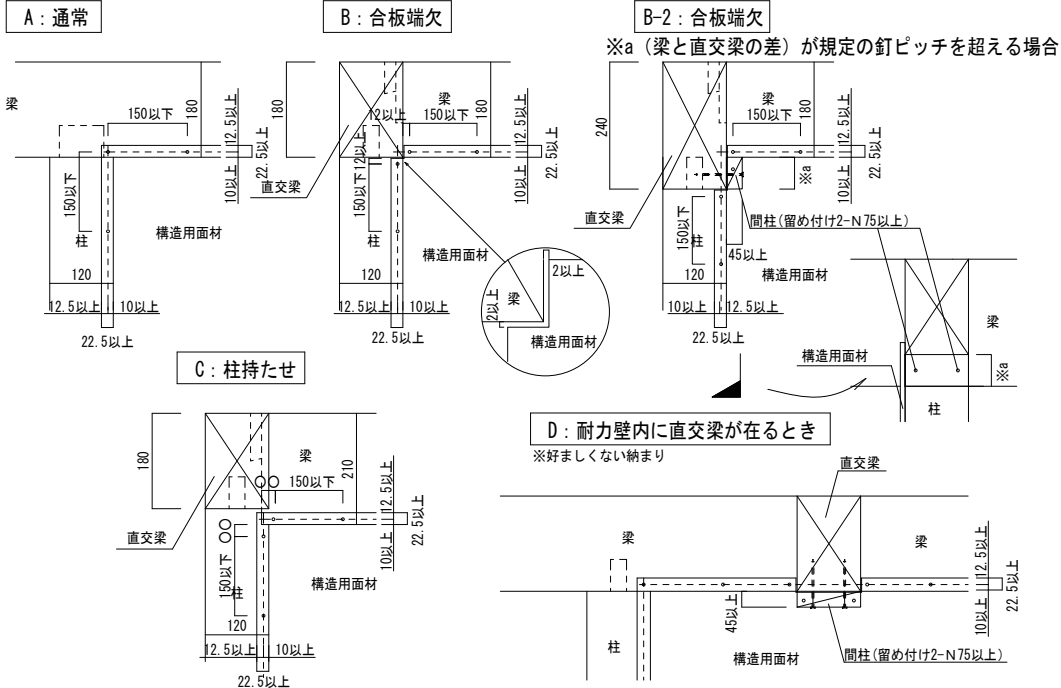
(注) (単位)mm

<共通事項>

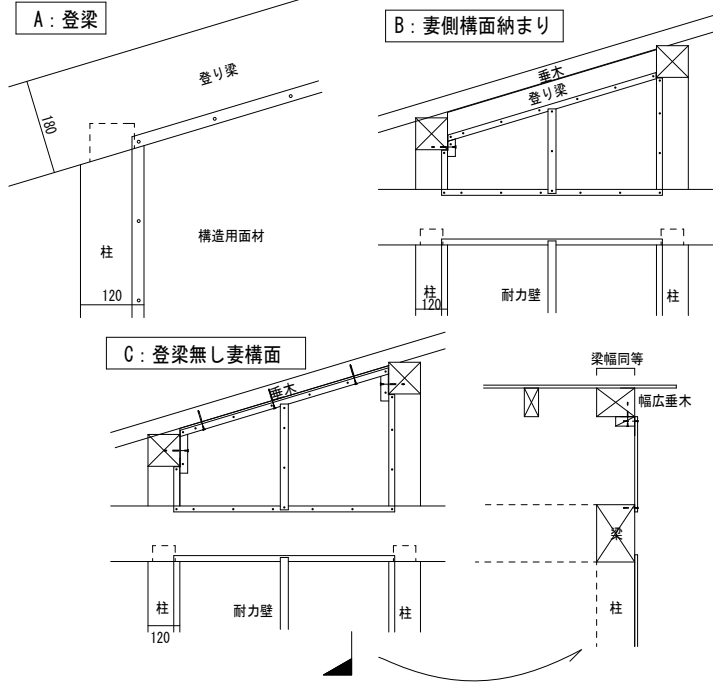
- ・面材は、9mm以上を標準とする。
- ・梁仕口部及び柱頭柱脚部の接合金物は、木造軸組接合部標準図(2)を参照すること。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および皮付き材は不可とし、四面ビン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ+1本」と読むこととする。

- ・開口直下の梁への間柱欠きは、原則行わない事。
- ・間柱(受材)を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。
受け材厚30mmの場合は、N75、CN75 以上
受け材厚45mm(耐力壁：水平力のみを負担する場合)は、N90、CN90(真壁の受け材留め付けと合わせる)以上
受け材厚45mm(水平構面：鉛直力と水平力を負担する場合)は、N115、木質構造用ビスL110 以上

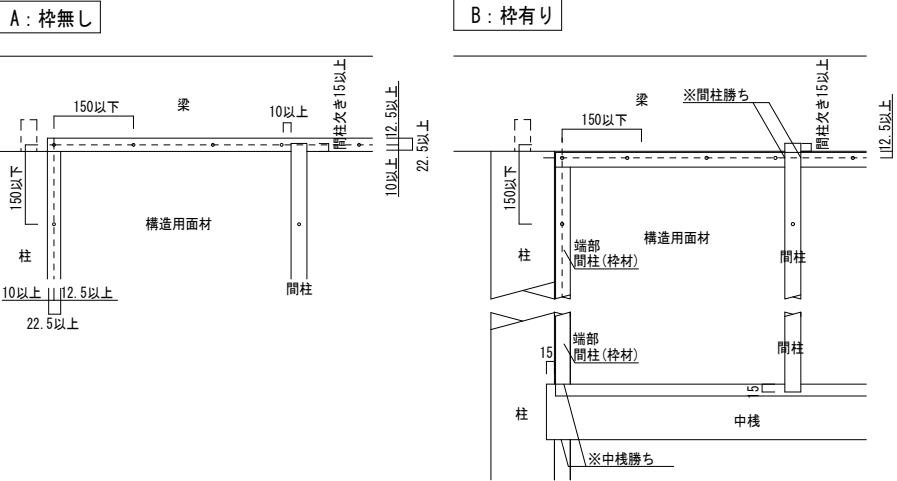
1. 直交梁との取り合い



2. 勾配屋根の納まり

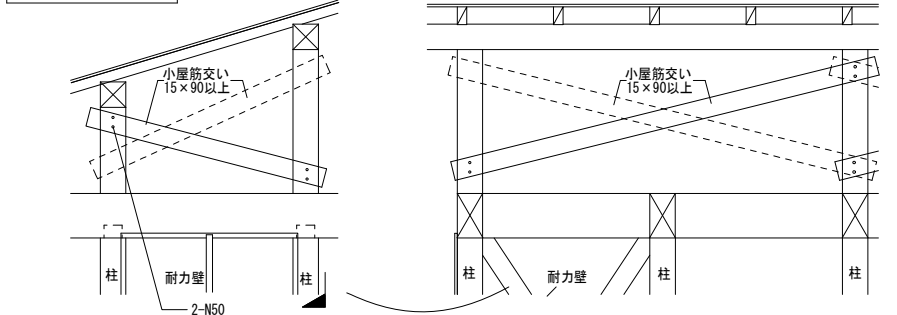


3. 受材・間柱勝ち負けルール

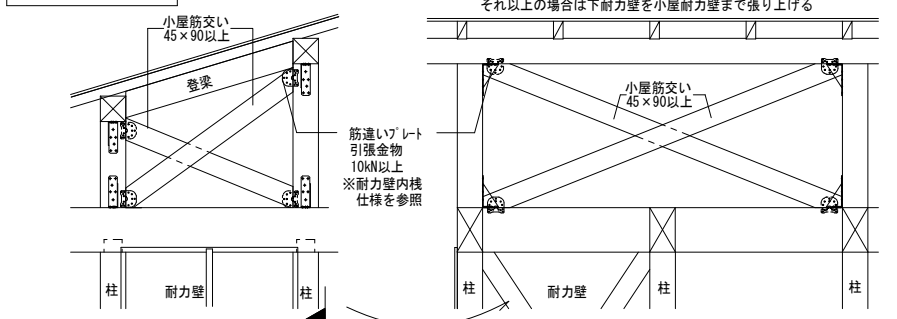


9. 小屋筋交い

A: 2倍耐力壁仕様

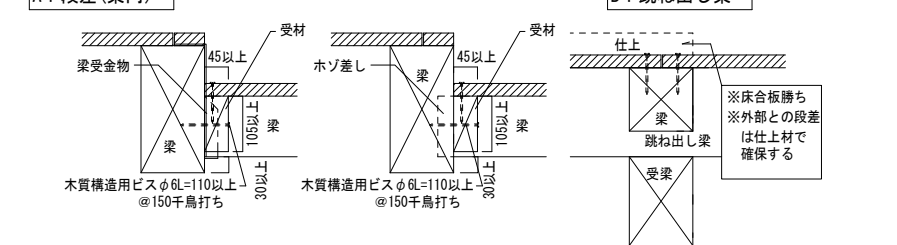


B: 4倍耐力壁仕様

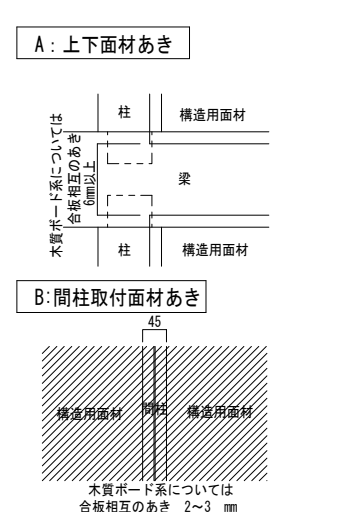


10. 段差

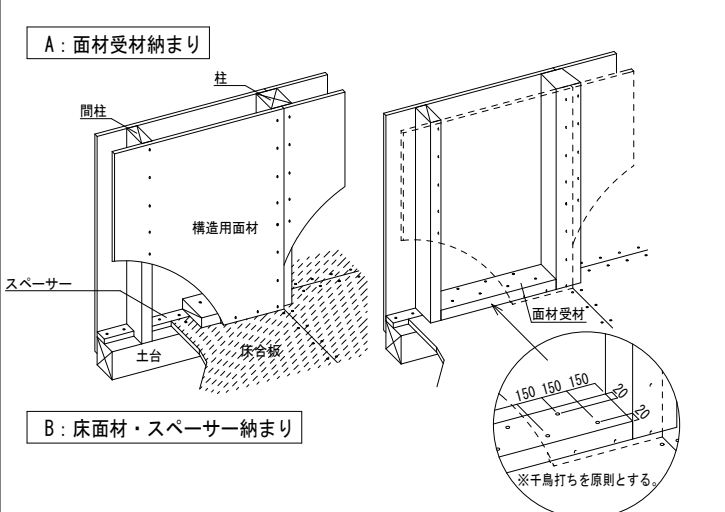
A: 段差(梁内)



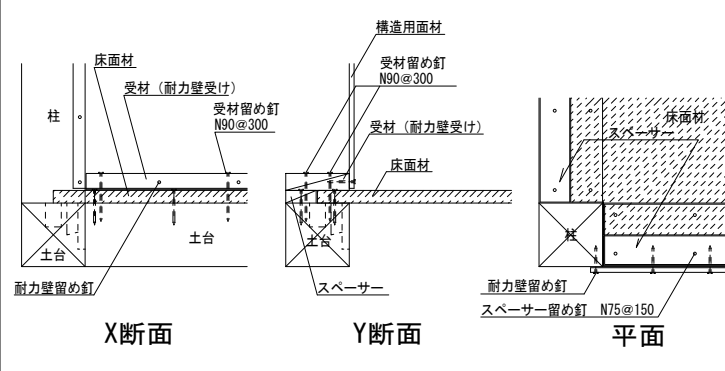
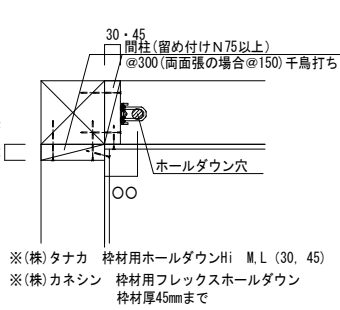
4. 面材相互あきのルール



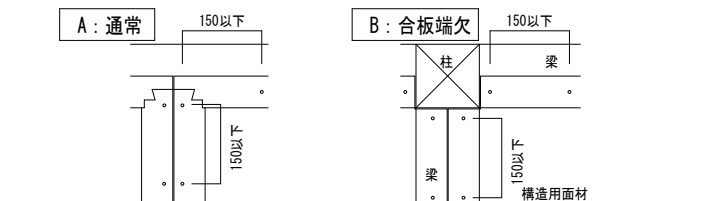
6. 床勝面材との取り合い



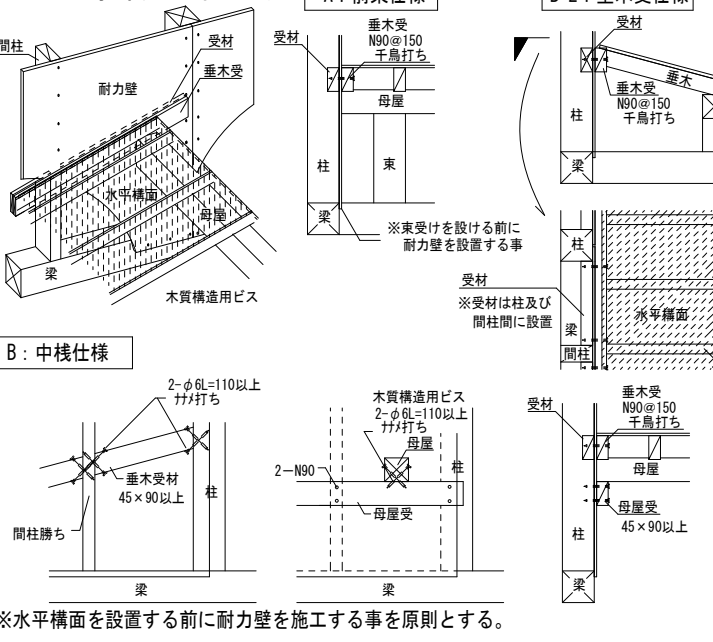
5. 入隅時納めおよび
枳材用ホールダウン納め



7. 水平構面



8. 下野部分の納まり



UDS

UDS株式会社

一級建築士事務所

登録番号 東京都知事 第55547号
一級建築士 第281824号 中原 典人

PROJECT. 南相馬市地域子育て支援拠点施設

TITLE. 木造軸組接合部標準図(3B)

SCALE. DATE. 2025. 03. 31

SIGN. 小田島

NO.

S-05

木造軸組接合部標準図(3C)

1. 令46条に定められた仕様に準じ、かつ実験で性能が確認された筋かい耐力壁（PWA推奨仕様筋かい耐力壁）

A. ニつ割：45×120の構造用製材の筋かいたすき掛け__壁倍率：4.0

部材断面

- ① 柱：105×105，または120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
- ② 土台：105×105，または120×120。 ※ 樹種はスギ，スプルース等、比重の低いものを除く。
- ③ 横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上，かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
- ④ 筋かい：45×120以上
E70相当以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋交い端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、80mm程度とする。
- ⑤ 間柱：45×105，または45×120以上

金物例示仕様

木質構造用ねじφ6-L100
(片面2本×両面、計4本)

- A 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいくブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- B 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- C 筋かい-間柱接合：木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本)
Xポイントビス_DXP6100 (若井産業)
パネリードⅡ+ P6×100Ⅱ+(シネジック) (ア詳細図参照)
- F 土台固定用アンカーボルト：M12
- G 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち

部材断面

- ① 柱：120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
- ② 土台：120×120以上。 ※ 樹種はスギ，スプルース等、比重の低いものを除く。
- ③ 横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上，かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
- ④ 中間横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上
- ⑤ 筋かい：45×90以上。 ※ E70相当以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋交い端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、80mm程度とする。
- ⑥ 間柱：45×120以上

金物例示仕様

- A 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいくブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- B 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- C 筋かい-間柱接合：木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本) (ア詳細図参照)
- D 中間横架材端部梁受金物：金物工法用梁受け金物 ※_h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力：引張_8.0kN以上、せん断および逆せん断_5.5kN以上)
- E 柱-基礎直結型柱脚金物：PS-OP_120角用 (BXカネシン)
- F 土台固定用アンカーボルト：M12
- G 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち

部材断面

- ① 柱：105×105，または120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
- ② 土台：105×105，または120×120。 ※ 樹種はスギ，スプルース等、比重の低いものを除く。
- ③ 横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上，かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
- ④ 筋かい：105×105，または120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、90mm程度とする。

金物例示仕様 (※C、D、共通)

- A 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいくブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- B 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- C 筋かい交差部：柱同寸筋交い交点補強金物 (ウ詳細図参照)
_PL-4.5x70x400 (使用鋼材：SS400) ビスφ6x75-18本/枚、※ 両面張り
※補強金物の取付面は、筋交い全幅に9mm影込みとする。
※補強金物は、タナカまたはカネシンBXで製作可能。
- D 中間横架材端部梁受金物：金物工法用梁受け金物 ※_h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力：引張_8.0kN以上、せん断および逆せん断_5.5kN以上)
- E 柱-基礎直結型柱脚金物：PS-OP_120角用 (BXカネシン) ※D、に適用
- F 土台固定用アンカーボルト：M12

部材断面

- ① 柱：120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
- ② 土台：120×120以上。 ※ 樹種はスギ，スプルース等、比重の低いものを除く。
- ③ 横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上，かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
- ④ 中間横架材：梁幅_柱寸法と同寸以上，梁せい_180以上
- ⑤ 筋かい：120×120以上。 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、100mm程度とする。